

## エコ活動の取り組み(第6報)

### 環境整備部会の役割とゴミの削減によるWエコ

中根亮一<sup>1)</sup> 田村和幸<sup>2)</sup> 美原恵里<sup>3)</sup>

- 1) 公益財団法人脳血管研究所介護老人保健施設アルボース介護福祉士
- 2) 公益財団法人脳血管研究所介護老人保健施設アルボース事務室長
- 3) 公益財団法人脳血管研究所介護老人保健施設アルボース施設長

[はじめに]

我々は、平成21年4月から法人全体としてWエコ(エコロジーとエコノミー両方のエコを取った造語)活動を実施し、これに関する老健としての取り組みについて5回にわたって報告している。今回の第6報では、老健のエコ活動に携わっている環境整備部会の活動内容、またWエコ活動のひとつであるゴミの削減の取り組みについて大きな成果が出たので報告する。

[環境整備部会とは]

当施設には、業務改善、ケアの質の向上を組成横断的に実践するために、教育部会、事故防止部会などの11の部会が設置されている。環境整備部会は、平成18年より活動開始し、現在のメンバーは、介護福祉士を部会長として、看護師、介護福祉士、リハスタッフら、8名から構成されている。その目的は、施設の利用者やご家族にとって不便なく快適な環境を整備、維持すること、また、職員にとっても業務しやすい環境をつくることである。場合によっては、大掛かりな設備の改善についても上申することがある。

[環境整備部会の主な活動内容]

#### 1. 施設内の環境改善のためのラウンド(月2回)

その月の担当部会員が、各療養棟、リハビリ室、スタッフルームなど施設全体を利用者の生活環境保全に関するチェック表に基づいて点検する。指摘事項があった場合、その部署の責任者に報告し、改善を検討させる。さらに、月1回の部会活動報告会で施設長および各責任者に報告をする。

#### 2. 環境における不備の改善

現場職員の視点から、療養環境として改善の余地があると思われる設備(ハード面)、手順(ソフト面)を見出し、環境整備部会において対応策を検討し、実施する。その後、対応策の結果を確認する。

#### 3. 施設の電力消費への介入

グリーンカーテン設置、エアコンの温度、また照明に関するルールを設定し、遵守状況を確認するとともに、定期的に電力消費量を現場にフィードバックして、電気使用を管理する。

#### 4. Wエコ活動としてのゴミ削減

法人の組織であるWエコ委員会<sup>1)</sup>の下部組織として、ゴミ削減への対策を実施する。

#### [ごみの削減についての取り組み]

環境整備部会のWエコ活動としてのゴミ削減について紹介する。

##### 1. ゴミの把握、分別、測量

処理方法により、再生ゴミ、生ゴミ、一般廃棄ゴミ、感染性廃棄ゴミに分類し、それぞれのゴミの量を計測、データ化した。

##### 2. 分析に基づいた啓発

毎月、なぜこのようなゴミの出方をしているのかを各部署担当の職員と部会員で検討させ、その結果を毎月、ラウンド結果と共に報告、同時に部会員は各部署にフィードバックし、職員一人ひとりにゴミに対する意識を持たせた。

#### [結果]

データを取り始めた平成26年度の可燃ゴミの合計は4,377kgであったが、27年度には4,058kgと319kg(-7.3%)減少した。また、28年度には4,023kgとなり、26年度と比較すると354kg(-8.1%)減少した。これに伴い、可燃ゴミ処理費用も26年度94,543<sub>2</sub>円だったのが、28年度は86,897円まで減少(-8.1%)している。

一方、古紙再生紙は、26年度2,239kg、27年度2,006kg、28年度2,194kgであった。分別を行わなければ、処理費用として26年度48,362円、27年度43,330円、28年度47,390円掛かるところを、それぞれ4,478円、4,012円、4,388円の収益として還元されていると算定できる。また、老健、併設病院との合計で生ゴミ処理機の27年度の処理量は約42,000kg、28年度の処理量は約37,400kgであり、これを可燃ゴミとして処理した場合の金額で換算すると、それぞれ約907,200円、約807,840円と算定される。

#### [考察]

環境整備部会員が中心となり細かく声掛け、チェック、分析を行うことで、職員の意識を環境というものに向けることができた。また、PDCAサイクル<sup>3)</sup>に基づき、目標と結果を話し合い、何をすればいいのかを提示することで参加意識や当事者意識が芽生え、最終的にゴミの削減に繋がり、結果として経費の削減にも繋がった。

#### [まとめ]

1. 環境整備部会の活動内容とそのひとつであるゴミの削減について報告した。
2. 部会として活動することによって職員が当事者意識を持ちやすくなった。
3. PDCAサイクルを機能させることでゴミの削減が実現し、経費の削減にも繋がった。

1) Wエコ委員会は平成21年より法人全体で活動を始め、Co2削減の目的と、物品管理を中心に無駄を無くすことを目的とした委員会である。

2) 可燃ゴミ(生ゴミ含む) 1kg=21.6円費用、古紙再生紙1kg=2円利益で計算。

3) Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の4段階を繰り返し、継続的に業務を改善する管理システム。

施設横断的な環境整備部会を組織し、現場職員が環境改善を主導したことで、職員一人ひとりの環境意識が向上した。この活動の効果の一つとして、ゴミの量が削減し、ゴミ処理に関する経費削減にも繋がった。

演題カテゴリー

発表形式口演

第1群101入所

第2群206データのある「効果」の提示

第3群 P3373 業務改善と効率化情報管理